

わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。



香流川をきれいにする会

代表 湯本 尚樹 さん

今回は、香流川沿いの清掃活動や自然保護などについて取り組む、香流川をきれいにする会代表の湯本尚樹さんと事務局長の神野和子さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：はじめに、香流川をきれいにする会について教えてください。

湯本尚樹さん(以下「湯本」)：この会は、月に1度最終土曜日の朝9時から10時まで、香流川沿い(新富士浦橋〜下川原橋)を歩きながら清掃活動をする団体です。ごみ袋、ごみの処理などは市の協力を得ています。

神野和子さん(以下「神野」)：会は15年前に前会長羽瀨伊平さんが創立しました。「香流川をきれいにして、川魚やメダカやトンボが増え、川辺を子どもたちが親しみ遊べる憩いの場にしたい」というのがきっかけであったと思います。当時は、レジ袋から炊飯器、扇風機までたくさんのごみが川に捨てられていましたが、現在、ごみの量は随分少くなりました。

また、市や北部自治会連合会と連携して「ながくて香流川ウォーク」や「清掃活動&苗木の植樹・草取り」、外来種のオオキンケイギフの駆除を行っています。今年3月には川に捨てられているごみの写真を集めた「香流川ごみ展」も開催しました。

情：清掃活動とともに香流川の生態系保護活動などにも取り組まれているんですね。湯本さんがこの会の活動に携わるようになったきっかけは。

湯本：9年前、私が会社を引退してすぐ、ある真夏の暑い日に散歩していたときに、10数人の人が汗水垂らしてごみを拾っていました。それまでは道路に落ちていたごみに気がついても拾おうと思わなかったんです。しかし、ごみを拾ってきれいにしてくれる人がいるということに心動かされ、私はそこにいらっしゃった人に、「この会に参加できますか」とって聞いたんです。そして、「誰でも受け入れていますよ」と。それからこの会の活動に参加するようになりました。

情：会のみなさんと出会ってから、定期的に活動に参加しようと思われたのはなぜですか。

湯本：ごみ拾いって単純作業だからこそ、無心になれる。終わった後にはまちがきれいになって気持ちもすっきりするし、小さな積善の気持ちにもなれる。家に持ち帰る宿題もない。そういうところが魅力ですね。さらに、活動を続けていくにつれてごみが減っていることもやり

情：これからの活動に対する思いを聞かせてください。

神野：私たちの活動は海に出ていくごみを減らすことにつながっています。川をきれいに保つことで生き物の多様性や環境美化に向き合っていきたいと思います。川のごみ拾いに終わりはありません。そのためにはまず、ごみを拾う人を増やしたいですね。

湯本：私たちの会は敷居が低く、どなたでも歓迎です。参加するのに年齢も国籍もお住まいの場所も問いません。定期的に参加される人もいれば、都合のつくときだけの人もおられます。みなさん自前の清掃グッズを工夫して活用されたりしています。何回かの参加で顔なじみにもなり仲良くもなれます。多様な人との交流も活動の楽しみの一つです。何かやりたいと思っても適当な機会がない、そんな人は地域に関わる第一歩として気軽に参加してみませんか。

香流川の清掃活動 問 土木課 ☎56-0621

- 時 10月23日(日)9:00~10:30
- 場 原邸公園または浄化センター対岸
- 対 市内在住の人
- 持 軍手、帽子、飲み物、ごみばさみ、剪定用具(用意できる人)
- 他 駐車場はありません。徒歩や自転車などでお越しください。
主催：香流川をきれいにする会

「Weeklyながくて」でも香流川をきれいにする会の活動の様子を取材しています。

Weeklyながくてはこちら

